



中部電力

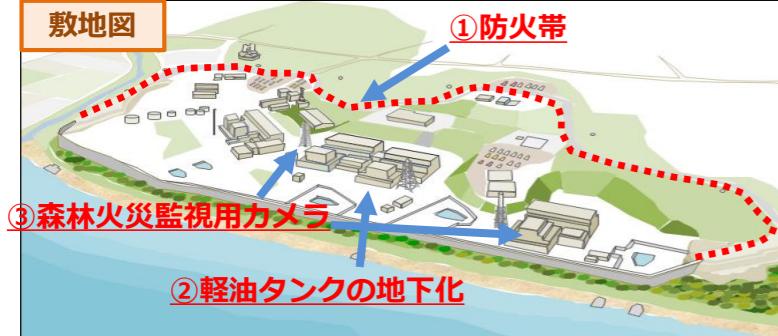
◆◆◆浜岡原子力発電所の安全性向上に向けた取り組みのお知らせ 第62報◆◆◆

中部電力株式会社
浜岡原子力総合事務所
平成28年12月発行

今月号の主な内容は、

- 工事の進捗状況等
外部火災対策

○静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認についてです！



【工事の進捗状況等】

○外部火災対策

森林火災や建屋外等の火災に対する対策として実施してきた、燃えるものがない帯状（幅約21m）の①防火帯の設置、軽油タンクの火災の影響を低減するための②軽油タンクの地下化工事が概ね完了しました。

今後は、③森林火災監視用カメラの設置および審査等の状況を踏まえ、適切な時期に既設タンクの油抜き・地下化したタンクへの切替等を実施していきます。

【①防火帯】



(28年1月)



(28年5月)

【②軽油タンク地下化】



輸送の様子



吊り込みの様子



地下化した軽油タンク

長さ：15m
幅：3.7m
高さ：4.4m
容量：120KL/基

既存の軽油タンク

【③森林火災監視用カメラ】



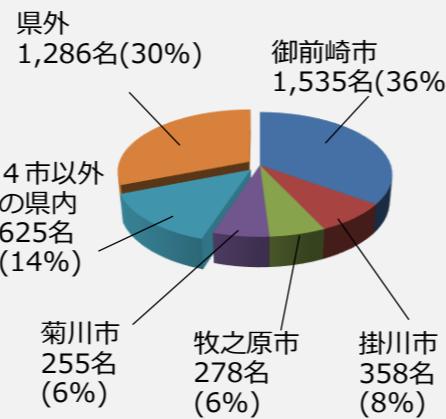
3号排気筒のカメラ

3号排気筒：
可視カメラ、赤外線カメラ
各4台
5号機原子炉建屋上：
可視カメラ、赤外線カメラ
各1台

浜岡原子力発電所従事者数 (11月1日現在)

4,337名（安全性向上対策工事従事者以外を含む）

【御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市在住：2,426名(56%)】



【静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について】

62回目となる11月18日、取水槽レベル計測設備の耐震性向上、取水槽他の溢水対策および放水ピットからの溢水対策について点検を受けました。

静岡県から、「今回確認した工事について、中部電力の計画どおり進んでいることを確認した。取水槽他の溢水対策および放水ピットからの溢水対策について、防波壁による津波の対策に加えて、海とつながる開口部からの流入対策が実施されていることを確認した。」との講評をいただきました。

御前崎市から、「工事が中部電力の計画どおり進んでいることを確認した。今後も重要な工事が継続するので、品質管理を徹底して工事を進めてほしい。」との講評をいただきました。



取水槽レベル計測設備の耐震性向上点検の様子



取水槽他の溢水対策点検の様子

63回目となる11月25日、水源の多様化（緊急時淡水貯槽の設置）および主蒸気逃がし安全弁自動減圧化ロジック改造*について点検を受けました。

静岡県から、「水源の多様化（緊急時淡水貯槽の設置）および主蒸気逃がし安全弁自動減圧化ロジック改造について、中部電力の計画どおりおこなわれていることを確認した。これらは安全を確保するうえで重要な設備であるため、メンテナンスを確実に実施してほしい。」との講評をいただきました。



水源の多様化（緊急時淡水貯槽の設置）点検の様子

御前崎市から、「工事が中部電力の計画どおりおこなわれていることを確認した。今後も確実に工事を進めてほしい。」との講評をいただきました。

* 主蒸気逃がし安全弁とは、原子炉の過度の圧力上昇を防止するために原子炉の減圧をおこなう設備です。4号機には全部で15弁あります。今回、炉心損傷を防止することを目的に15弁のうち2弁が自動で開くようにしていったロジック（論理回路）を、安全性をさらに高めるために3弁が自動で開くように改造しました。

【審査会合】

原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。

(3,4号機を申請中ですが、現在4号機の審査が進められています。)

<4号機の進捗状況>

(平成28年11月30日現在)

項目	地震・津波等に関する事項	プラントに関する事項
回数	計15回	合同で2回実施
	(11月に地震・津波等に関する事項およびプラントに関する事項各1回実施)	計57回

審査は、地震・津波等に関する事項とプラントに関する事項に分けておこなわれています。
今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力していきます。

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへ紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定の重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、備え付けの設備だけではなく、可搬型の設備も配備しています。4号機に係る主な工事は、9月末にて工事を終了し、主要な機能（電源、注水、除熱等）は強化されています。_____は工事・配備終了を示す

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一齊に機能喪失しないようにします。



【主な重大事故等対処設備】重大事故等の発生に備え、冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。



重大事故時に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班の立ち上げ準備をおこなっています。

24時間
365日体制

緊急時に特化した
幅広い対応力



(現在13名)

役割

- ・戦略検討
- ・アクセスルート確保
- ・可搬設備の操作等
- ・現場対応

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>

- ・大型自動車免許
- ・けん引免許
- ・移動式クレーン免許
- ・危険物取扱者（乙種4類）など

【資機材の充実】

発電所での活動に支障をきたさないよう様々な資機材を配備しています。

配備数を見直し、必要に応じて追加しました。



シンチレーション
サーベイメータ



タイベックスーツ

【訓練の充実】目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



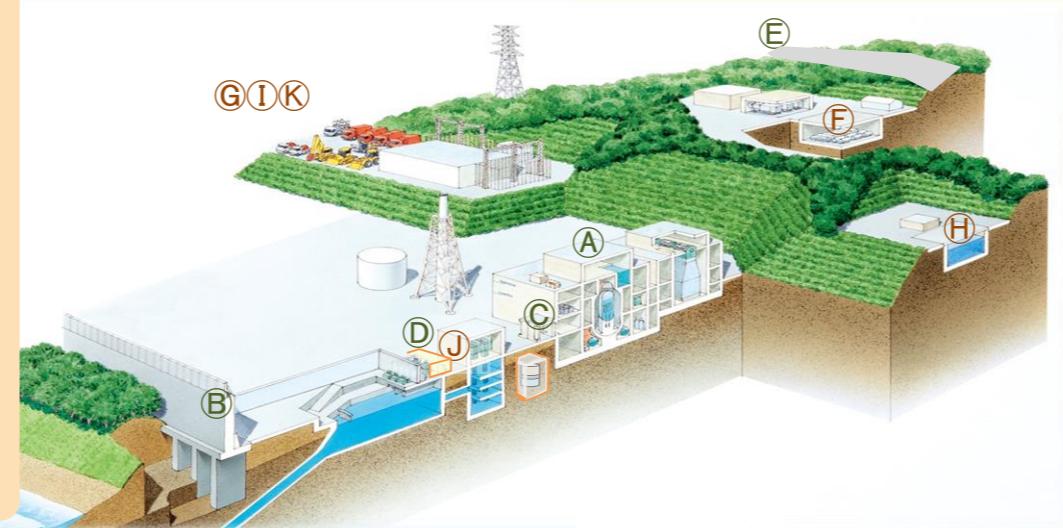
判断能力の向上を目的とした訓練を平成27年度から実施しています。

現場訓練



シミュレータ訓練
電源車操作訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要な力量の向上に努めています。



浜岡原子力発電所では、安全性向上対策工事を進めています。また、配備された設備が期待どおりの機能を発揮することができるよう現場対応力を強化しています。今後とも、更なる安全性の向上に努め、地域をはじめ社会のみなさまから、より信頼される発電所を目指して取り組んでまいります。